



MINATO TOKYO

Bulletin

みなと
ユネスコ

MINATO UNESCO ASSOCIATION NEWS & CALENDAR

ISSUED BY/MINATO UNESCO ASSN. 16-3,SHIMBASHI 3-CHOME MINATO-KU TOKYO 105-0004/MITSUKO TAKAI PRES.
発行所/港ユネスコ協会 〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 TEL・FAX 03 (3434) 2233 発行人/高井光子

2015年12月1日発行 第142号

目次	
P1 巻頭言	P15 エイサー体験教室 / 区民まつり参加
P2-5 講演会「伊勢神宮式年遷宮を撮る」	P16 アゼルバイジャン大使館訪問
P6-13 UNESCO ユースフォーラム in みなと 2015	P17 叙勲/関東ブロックユネスコ活動研究会 in 佐野
P14 リトアニア料理ワークショップ	P18 事務局便り / 編集後記

港ユネスコ、人との出会い

港ユネスコ協会 理事 鈴木明美



港ユネスコ協会創立記念式典が1981年10月17日、白金・迎賓館(現・東京都庭園美術館)で催された時に、ある方からお誘いいただき、参列しました。

あの時から現在まで34年間、出会った方がたから、どれだけ多くの影響を与えていただいたかしらと、思い出しています。

当初、「無」のところから出発したので、会員は、いろいろな事柄に関わり、いろいろな方がたと交流しました。ブレティン発行、発送には、当時港区役所の一角をお借りして、力を合わせた経験もありました。

創立後の3年間、新年には、「日本のお正月を外国人に紹介する会」として、みなと幼稚園などをお借りし、お餅つきや、いろいろな正月行事を紹介しました。お雑煮を作って、皆さまにふるまったのが、後々の、今の料理紹介につながっているのかもしれない。

その後、新年会はニューイヤーズパーティとなって、葵会館や芝浦の弥生会館へと続きました。一般の参加者も多く、高校生のボランティアも交え、盛会でした。食事を一緒に楽しむことは交流には大きな役目を果たします。

今、私は世界の味文化を紹介する委員会に所属しています。講師はほとんどがそのお国の方がたです。オリンピック開会式の入場で耳にする遠い見知らぬ国の方とも親しくさせていただきます。

料理開催日までの数カ月、わくわくしながら準備を進めます。お国の料理を習うのは勿論のことですが、思わぬ知識を与えていただきます。

思い出に残る出会いの1つに、ギリシャからの留学生が料理の講師をして下さったことがありました。お母様から教わった料理をして下さるのですが、ご自分も不安、しかも材料を日本の何処で買ってよいかわからず、我々スタッフも手探り状態でした。

当日、サプライズがありました。学校の先生をしておられるお母様が、「ちょうど休暇期間になったので」と、日本にいらしたのです。教室が大成功だったのは申すまでもありません。帰国後もお互いに感激を分かち合いました。

今、人は気忙しく生活していて、人と会っても、気持ちを合わせる事が少なくなっているように感じます。

内外を問わず、「人との出会い」を大事にすることこそ、人間を豊かにするのではないのでしょうか。

日本の美の心

伊勢神宮 式年遷宮を撮る

講師：南川三治郎（みなみかわ さんじろう）氏 写真家

日時：2015 年 10 月 28 日（金） 午後 6 時 30 分～8 時 30 分

会場：麻布区民センター・ホール （麻布地区総合支所地下一階）

約 1300 年前から、20 年に 1 度繰り返されてきた伊勢神宮の式年遷宮。古来から変わらない技法で、正殿をはじめすべてのお宮を建て替え、ご装束やご神宝を新調して、御神体を新宮へ遷します。

第 62 回神宮式年遷宮は、平成 17 年から諸祭・行事が執り行われ、平成 25 年 10 月に遷御の儀が催行されました。

神宮の式年遷宮を通して古来から伝わる日本の伝統や文化の継承を大切に、またそれとともにある自然と共生しようとする「日本の美の心」をテーマにお話いただきました。

講師プロフィール



三重県出身。2015 年日本写真協会作家賞受賞。

「ヨーロッパの人と文化」に焦点を当て国の内外に発表。

フランス、スペインの世界遺産「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」、

日本の世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に続き、

平成 18 年より第 62 回神宮式年遷宮の取材・撮影に取り組む。

主な著書：「アトリエの巨匠 100 人」（新潮社）

「推理作家の発想工房」（文藝春秋）、

「ヴェルサイユ宮殿」など。

講演内容

(1) 写真を始めて、今年でちょうど 50 年

大宅壮一氏が開いた「大宅壮一東京マスコミ塾」の第 1 期生となり、渋谷の雑誌社に勤務しながら勉強した。親に無理を言って一年間パリ滞在を果たす。風呂のない屋根裏部屋の暮らしだった。それ以降も半分以上はパリに住んで、日本と行ったり来たりの生活をしていた。

私はテーマを決め、それに沿って撮影するスタイル。

「アトリエの巨匠 100 人」の完成には 20 年くらいかかった。「推理作家の発想工房」では 30 人ほどの作家を取り上げている。グレアム・グリーンとか、フレデリック・フォーサイス、ル・カレなど早川ミステリーの作家たちだ。

ヨーロッパの貴族社会はどんな生活？という関心から、お嬢さんたちに焦点を当てたシリーズもある。イコンを対象としたことも。もっぱらヨーロッパに興味があり、パリは撮影活動に便利な拠点だった。

巡礼の路については、サンティアゴ・デ・コンポステーラに続いて紀伊山地の熊野古道を撮影し、富士フィルムスクエアにて展覧会を開いた。そこに三重県の人に来て、「伊勢神宮の遷宮を是非撮影して下さい。お金は出せ

ないけど協力します」と言われた。少し前に偶然「お木曳」の行事と出会ったこともあり、運命と感じた。寄る年波で、日本に回帰したくなったのかもしれない。

伊勢神宮の式年遷宮との取り組みには8年かかった。この間、カメラはフィルムからデジタルに移行し、新しい技術の習得には大いに苦労した。

写真は三重県総合博物館で展示の機会を得たが、日本国内では他のどこでもやれなかった。そこで海外に出て、ローマ、ニューヨーク、ロサンゼルス、ケルンの4か所で写真展を開いた。日本文化の源流を理解してもらえて良かったと思う。

(2) 伊勢神宮の式年遷宮について

(多くの映像を見せて頂きました。以下3枚のお写真は、南川氏が撮影されたものです)

● なぜ20年ごとに遷宮をするのか？

一つには、木造建築なので木が腐る。もう一つの理由は、伝統工芸を伝承するため。1,400年もの昔から、古文書に書かれているのと同じ作り方が守られてきた。

● 宇治橋は7年前に架け替えられた。過去に洪水で流されたせいで、時期がずれている。

渡り初め式では3代そろった家族が、渡り女(わたりめ)を先頭に新しい橋を渡る。この宇治橋と鳥居は、フィルムで撮影した最後の写真。この橋を渡ると内宮の神域に入るのだが、私は心が温かくなるのを感じる。

● 自給自足の原則：神宮は田んぼを所有し、種まき、田植え、刈り取りを手作業で行う。



豊受大御神（外宮）での鎮地祭
内宮に続いて正午から斎行された

暑い時期には一週間かけて塩を作る。松阪の機殿神社(はたどのじんじゃ)では、神様にお供えする布と、神職の着物を織る。神領の海では鯛やアワビが獲れる。地方からの貢ぎ物もある。これらは米俵に包まれトラックで近くまで来るが、内宮へは舟で、外宮へは台車で運び込まれる。

● 神職は忙しい：水を汲みに井戸へ行くのは朝の大切な行事である。

触れ太鼓が鳴ると、60人くらいの神職が雨の日も風の日も神にお仕えする。月次祭(つきなみのまつり)は年2回。2012年6月には、ご高齢の池田厚子さんに代わって黒田清子さんが臨時祭主をお務めになった。儀式の撮影は許可されても、何をやっているか教えてもらえない。質問すると、「見ての通りです」。

大祓(おおはらい)は年に2回。神職は砂利の上に莫藎を敷いて30分間正座する。「大変ですね」と声を掛けると、「これも修行の一環ですから」とのお答えだった。

神様にお供えするお食事は平安時代と同じと聞き、これについて質問すると、「そんな恐れ多いこと、よく聞くね」と言われた。

● 絶妙な土地選び：天照大神(あまてらすおおみかみ)は、「私の住むところを定めたい」と全国をご覧になり、伊勢を見たとき「ここが良い」とお決めになったとされる。

人間が一日に歩ける距離は 50km 程であり、その圏内に衣食住すべてが揃う。平地があり、田んぼがある。海の幸、山の幸に恵まれる。さらに後ろに山、前に海という地形は、外敵に侵されにくい。良い場所を見つげられたと思う。

- 遷宮は大行事：新しい宮を建設するための木材は伊勢だけでは調達できず、木曾から運んでくる。

木材はご神木と呼ばれ、小さなカンナで削る。ヒノキなので良い香りがする。鼻にすっと抜ける香り。立柱祭（りっちゅうさい）では心柱（しんばしら）を立てるが、まさらなヒノキが報道陣のいる場所まで匂ってきた。

ちなみに、この心柱の使用はヨーロッパの教会も同じであり、興味深い。



神御衣祭（かんみそさい）（平成 24 年 4 月）
臨時祭主の元皇族の黒田清子様が祭典奉仕された。

柱の立つ敷地をつき固める祭もある（杵築祭 こつきさい）。ご神木を運ぶ行事が「お木曳」。お白石の行事もある。お白石を拾い、運び込み、敷き詰める。

新しい社殿の欄干には、金や玉（ぎょく）の飾りが見られる。国内で玉を探す専門の人が存在すると聞いた。

撮影については許可が必要な場面が多かった。遷御の前に新しい社殿を撮影する機会を貰ったが、30 分間という制限付きで、係の方が傍について「もういいでしょ」と急かす。

こちらは「いや、まだまだ」と粘った。

（3）不思議な体験

遷宮の中核行事は「遷御の儀」で、ご神体とご神宝を新しい社殿にしずしずと運ぶ。

ご神宝とは神様のお使いになる宝で、首飾り、王冠、指輪などが箱に収められている。

内宮の遷御では正面に三脚を据え、デジタルカメラを載せて待機したが、夜間に照明なしで、真っ暗闇の中。映るのかとっていると、左上から青白い光がピカピカ、ひゅっと来て、生暖かい風がふわっと来た。あ、これは撮らなきゃ、とと思って、暗い中でカチャカチャカチャとやった。

画面を見ると真っ暗で映ってない。それでメーカーの方に来て頂いて、現像して頂いた映像が、これ。あとで広報室長に「いやあ、昨日凄かったですね。青白い光がぴかぴか、風が吹いてきた」と話すと、「南川さん、良い経験なさいましたね。私も上のお社（やしろ）で同じものを見ました。感じる人と感じない人があります。あなたは見えて良かったですね」と言われた。

外宮では一番高いところにカメラを上げて待っていた。距離は 40m くらい離れていたが、この辺りじゃないかと大体の当たりをつけていたところ、風が吹いてきたのを感じ、シャッターを押したのが、これ。展覧会に来た広報室長が「写ってますね」と一言。

質疑応答

質問 1：写真を拝見すると、南川さんご自身が伊勢神宮の一部になっておられる感じがする。

回答：宇治橋を渡ったところから俗世界と離れ、心が洗われる気がする。遷御の儀の時には、頭が真っ白になったが、心にすっと落ちてくるものがあった。

質問2：私はフィルムカメラを半世紀以上使って撮影してきたが、被写体とカメラマンが一心同体になった時に初めて良い作品が出来ると信じている。

回答：心にすんと落ちた時に、シャッターも落ちている。神様が撮らせて下さってる。僕の力量ではない。

質問3：一度は伊勢神宮にお参りしたいと思っているが、おすすめの時期は？ヒノキの香りは嗅げますか？

回答：一年 365 日、いつお参りされても異なる経験が出来る。残念ながらヒノキの香りは徐々に薄れてしまう。3年ぐらい経つと残らない。ただ、下級の神社に下げ渡されると、削り直しがあり、また匂いが出る。

質問4：パリにお住まいの頃は、パリのどこで写真を撮られたのかと思いながらお話を聞いていた。

回答：モンマルトルに住んでいたのも、好きな場所はモンマルトルの丘、左側の小道。しかし僕はテーマに沿って撮るので、パリの写真はほとんどない。「アトリエの巨匠たち 100 人」では、アポイントメントを取るのが大変だった。OK が出ると、すぐに飛んで行く。その点パリはヨーロッパの中心に位置し、便利な拠点だった。ヴェルサイユ宮殿の撮影許可を得た時は、休館日ごとに 52 回、宮殿に通った。大宅先生の教えを守っている。



質問5：サンティアゴ・デ・コンポステーラを一度歩いてみたいと思っている。

回答：朝 5 時に起き、6 時出発、一日 40 から 50km 歩いて午後 3 時チェックイン、市場で買い物という生活を一か月続ける。10kg やせませす。

質問6：「アトリエの巨匠たち 100 人」の取材で一番印象に残るアーティストは？

回答：一人ずつ印象が違うので語り出したら一か月掛かると思うが、面白かったのはシャガール。奥さんに牛耳られていた。

質問7：20年に一回の式年遷宮で、伝統や技術の継承を担う人々は、身分を保証されているのか？鶺鴒飼いに関わる方たちが宮内庁に所属すると聞いて驚いた経験があるので。

回答：身分については知らない。カンナをかける人、木を伐採する人という風に仕事は分業になっており、それぞれ先祖から伝統を受け継いでいる。

質問8：伊勢神宮の遷宮のお仕事を終えて、この後何かご計画は？

回答：この仕事に 8 年掛けた。今は新しいことは考えていない。来年の伊勢志摩サミットに合わせて伊勢神宮式年遷宮の写真展を開くお話を頂いたので、これに集中している。

五十鈴川での川曳（かわびき）（平成 25 年 7 月）
木そりに乗せたお白石を、川を遡って内宮まで運ぶ。

（国際学術文化委員会担当常任理事 宮下ゆかり）

UNESCO・ユース・フォーラム in みなと 2015

～つながり始める僕らの New World～

日時：2015年10月3日(土) 13:00～16:40

会場：リーブラホール (みなとパーク芝浦1階)



協力：いっくら国際文化交流会 / 宇都宮ユネスコ協会
慶応大学ユネスコクラブ
玉川大学ユネスコクラブ
新宿ユネスコ協会

後援：日本ユネスコ協会連盟 / 東京都ユネスコ連絡協議会

《使用語：日本語》

毎年1回開催される、第5回「UNESCO ユース・フォーラム in みなと」は、第1回～第4回と同様、港区と宇都宮という2つの地域のコラボレーションの形で行われました。

世界から学びに来られている留学生の皆さんにご出演いただき、日本人との交流の場をつくり、相互理解の機会となることを目的としています。

留学生ゲストとして、宇都宮大学の7名、作新学院大学の3名、東京の成蹊大学から1名の合計11名にご参加いただきました。

実行委員として、慶応大学ユネスコクラブと玉川大学ユネスコクラブの大学生たち、新宿ユネスコ協会の青年、そして、港ユネスコ協会の青年たちが協力して、すべての企画運営にあたって下さいました。

13:00 開始

総合司会 今井 潤 (慶応大学ユネスコクラブ 法学部3年)
高橋 健人 (慶応大学ユネスコクラブ 法学部2年)

総合司会者から、UNESCO ユース・フォーラム の目的、プログラム内容、スケジュール等の説明がありました。

オープニング	13:00～
第1部	13:10～ 留学生の母国紹介(6か国)
第2部	14:10～ グループトーク(全員参加)
第3部	15:20～ グループワーク(全員参加)
第4部	16:25～ モンゴルの民族舞踊
エンディング	16:30～ 閉会 16:40



オープニング

1) 主催者のことば 港ユネスコ協会会長 高井光子

今年で第5回目になります。ゲストの留学生の皆様、実行委員の皆様、そしてご出席の皆様の大勢の方がたのご協力のもとに開催できますことを心から感謝いたしております。留学生の方がたと一緒に、若い方はもちろん、いろいろな年代の方が、楽しく、思い出に残るような時間を親しく共有していただければと願っています。

2) 協力者のことば 港ユネスコ協会理事・長門芳子 いっくら国際文化交流会・宇都宮ユネスコ協会の会長

本日は、宇都宮大学から7名、作新学院大学から3名の留学生がご招待を受けて、たいへん喜んで、楽しみにして参加させていただきました。地方で学ぶ留学生にとって、新幹線で港区に来て、東京の皆さん、特に大学生の皆さんと一緒に、1つの催しに参加できることはとても貴重な機会です。いいフォーラムとなることを祈っています。

3) ゲスト留学生全員の自己紹介

11名の留学生に舞台上に上って、出身国名と、名前を自己紹介していただきました。(向かって左から)



ディダ・ベサリさん(アルバニア)、
コウ・ショウトウさん(中国)、
ロニーさん(コスタリカ)、
ナインさん(ミャンマー)、
グエンさん(ベトナム)、
ナビラさん(マレーシア)、
ジン・リンさん(中国・内モンゴル出身)、
ムンジュさん(モンゴル)、
マヤさん(モンゴル)、
ウーラーさん(モンゴル)、
ササンカさん(スリランカ)

第1部 留学生による、母国紹介 6か国 (ABC順) 各人5分

一人5分という短い持ち時間内に、パワーポイントを使って、自国をよりよく理解してもらえようと、それぞれに工夫をして、素晴らしいプレゼンテーションしてくれました。さすがでした。客席の皆さんは、これらの国々を訪れたいと思ったのではないのでしょうか。



1) アルバニア共和国 ディダ ベサリさん



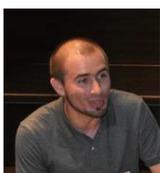
正式国名は「シュチパリア」という。シュチパリアは、「鷲の国」という意味。英語表記は Republic of Albania で、日本語でアルバニア共和国と呼ぶ。(日本は自国を日本と言うが、英語などでジャパンと呼ばれるのと同様。)西はアドリア海に面し、北にはモンテネグロ、東にマケドニア共和国とコソボ、南はギリシアと国境を接する。面積は四国の約1.5倍と、小さいけれど古い歴史を持つ。マザーテレサは北の方の出身。地形の77%は山岳であるため、動物や植物が豊かで、山登り、トレッキングなどが盛んである。ユネスコの世界文化遺産に都市遺跡が3つ登録されている。オスマン帝国時代の町並みが保存されている歴史地区群であり、現在も人々がそこで生活をしている。

2) 中華人民共和国 コウ ショウトウさん

中国は5000年の歴史を持ち、人口は統計上13億人。面積は960万km²。90年代以降に生まれた人口が2億人になっている。彼らは生活に苦勞をしていない世代であり、ネットを通じて世界の情報を手に入れている。目立つことが好きで、自分らしさをアピールするために、見た目を重視したデザインや多様性を好んでいる。私は14年半前に日本に来て、日本語を勉強した。現在、作新学院大学で博士論文を執筆中であるが、2013年12月会社を立ち上げて、中華料理店を経営している。日本に来て学んだこと、それは国や経済や政治に関係なく、人と人とのつながりが極めて重要であるということ。これからも、日本と中国の架け橋となり、自分のできることを、皆さんと一緒にやりたいと思っている。



3) コスタリカ共和国 ロニーさん



コスタリカは「豊かな海岸」という意味。中央アメリカの南部に位置する。面積は日本の7分の1で、人口は487万人で、日本の26分の1という小さな国である。民主主義の国であり、ラテンアメリカの中では政治的に安定している。軍隊を持たない国として有名である。軍備に使うお金は他のことに使っている。国立公園、自然保護区の総面積は全国の4分の1を超える。国の面積は地球の0.03%に過ぎないが、地球上のすべての生物種の4%が生息していると言われていたほど、豊かである。

4) マレーシア ナビラさん

面積は33万km²で、日本の約0.9倍。人口は2995万人。マンゴーのような形をした国。トロピカルな国なので果物もトロピカルなものばかり。四季がないので、苺や葡萄などは輸入に頼っている。人気のあるスポーツはサッカー。多民族国家(マレー系:約67%、中国系:約25%、インド系:約7%、他)であり、宗教も、イスラム教、仏教、ヒンドゥー教、キリスト教、儒教・道教などである。



多民族が、融合しながら、互いに異文化を大切にしながら平和に暮らしている。

5) ミャンマー連邦共和国 ナインさん



中国とインドの間に位置する。面積は68万km²で、日本の約1.8倍であり、人口は5141万人で、日本の約半分。多民族国家で、ビルマ族は約70%だが、135の少数民族が住んでいる。言語はミャンマー語。

私の故郷のマンダレーは、国のほぼ真ん中に位置し、観光で有名。ミャンマーで一番暑い町で、夏は毎日摂氏40度を越える。山全体が聖地であり、山頂部にはマンダレー最古の仏頭があり、広大な旧王宮や市街を一望することができる。特に夕焼けが美しい。木製の橋として世界で一番長い橋がある。

正月の水かけ祭りがたいへん有名。屋台で、伝統的な食べ物を楽しんで欲しいし、自転車タクシー、馬車、牛車や、バスも試して下さい。写真のように、バスには男は立ったまま乗るのが当たり前です。(笑)

6) ベトナム社会主義共和国 グエンさん



面積は32万9241km²。人口は、9250万人。民族はキン族(越人)が約86%で一番多く、他に54民族がいる(最近1民族が見つかった。)55の民族は言葉も服装も踊りなどもそれぞれに異なる。

日本に着いた時から、「戦争はまだ続いているの?」とか、よく戦争のことについて聞かれる。フランス、日本、アメリカなどとの長い戦争があったので、傷はたくさん残ってはいる。しかし、ホーチミン氏のお陰で平和になった。ホーチミン氏は、ベトナムの誇りだと思って尊敬している。1995年にはアメリカと国交正常化し、ASEANに加盟し、1998年にはAPECに正式参加した。現在、母国が平和で、経済的発展しているのは、皆様のお陰であると有難く思っている。

14:10 第2部 パネル・トーク

参加者全員が3つのグループに分かれて、椅子を動かし、円形になって座りました。

留学生が3~4人が一組となって、各グループを15分ごとに、順に回って日本人との話し合いになりました。

留学生の皆さんには、前もって、「日本に来て感じた“自分の変化”」、「意外だった!?日本で感じた母国とのギャップ」「日本で〇〇にはまりました」、「『留学生が思い描く将来の夢』などについて考えて来てもらいました。

各グループには、リーダー(実行委員)が全員の話し合いがスムーズに進むように進行役をしたり、気配りをしてくれました。参加者全員が自由な、気楽な形での、話し合いの時間となりました。日本人から質問が次つぎと出て、会場のあちこちから、笑い声が沸き上がる、打ち解けた時間でした。

A チームリーダー： (慶応大学ユネスコクラブ) 池田早紀、吉澤未有

B チームリーダー： (玉川大学ユネスコクラブ) 利根川 護、室久 智栄、笠 直哉

C チームリーダー： (港ユネスコ協会青年) 岩田 麻衣、関 友哉、吉原 浩昌



15:20 第3部 グループワーク



司会 五枚橋興子 (玉川大学ユネスコクラブ)
星野 彩姫 (玉川大学ユネスコクラブ)

- *世界の地理に関するクイズ — グループ対抗の形で競われました。
 - *貼り絵づくり。グループに分かれて、テーマを表現する1つの作品を作る。「テーマ」は、グループにそっと提示される。B4の紙1枚、折り紙1セット、のり、セロテープ、指をつかって、そのテーマを表現する。
- テーマを知らない人に、当ててもらえれば成功。出されたテーマは、東京、海、朝食、猫。



16:20 第4部 モンゴルの民族舞踊



マヤさんと ムンジュさんが披露してくれました。
舞踊のタイトルは、「モンゴルの女性」。
朝起きてから一日の「モンゴル女性」の生活を表現した踊りとのことで、とても優雅に踊っていただきました。

16:30エンディング

留学生を代表してお礼の言葉 ササンカさん (スリランカ、宇都宮大学工学部修士課程)

このような良い機会を作って頂いたことに感謝しています。留学というのは、時間とお金の戦いであると思っています。毎日勉強し、アルバイトをしながら過ごしています。今日は、日常から離れて、宇都宮から新幹線に乗ってここへ来て、日本人学生と交流し、沢山のことを経験でき、楽しい1日を過ごすことができました。留学生がどういう生活をし、何を考え、感じているかなどを話す機会がありません。今日は皆さんと一緒に話すことができました。私は3回目の参加ですが、このフォーラムが一番楽しい催しの1つです。来年から社会人となるので、留学生のやることを見に来たいと思う。来年も、その次も、ずっと続けて欲しい。僕たちも協力しますので、この会をよりよいものとなるよう、努力していきましょう。



閉会の言葉

鶴岡真人さん（新宿ユネスコ協会青年会員 目白大学地域社会学科4年）



皆さん、お楽しみいただきましたでしょうか？（会場から大きな拍手）
今日のイベントを通して、私が確信したことがあります。それは、大勢で一つのことをして楽しむには、国籍は全く関係ないということです。今日、それぞれの大学や組織から集まっていただき、こんな楽しい会が実現できることに驚いており、嬉しい気持ちで一杯です。盛り上げて下さった留学生の皆様にも、参加して下さった皆様にも、お礼申し上げます。



実行委員会 13名 東京の青年たち

副委員長（岩田麻衣） 実行委員へのお礼の言葉

私たち港ユネスコ協会の青年だけでなく、慶応大学ユネスコクラブと玉川大学ユネスコクラブの大学生、新宿ユネスコ協会の青年にご協力いただいたからこそ、本日のような素晴らしい楽しいフォーラム

が実現しました。実行委員の皆さま、有難うございました。

総合司会者（今井潤、高橋健人）の挨拶

今日、ご出席下さった留学生の皆さん、そして、準備と運営に関わって下さった各大学の皆さんに、心からお礼申し上げます。また、UNESCO ユース・フォーラムを支えて下さった港ユネスコ協会と港区教育委員会にもお礼申し上げます。

皆さんが、楽しい午後を過ごしていただき、実り多く、思い出に残る1日となれば、大変嬉しく思います。ご協力下さった方がた、ご参加下さった皆さん、有難うございました。



閉会 16:40 名残りを惜しみながら解散いたしました。

広報のお知らせ

- * 港区広報番組「港区広報ピクス」港区のホームページで、2015年11月11日から1年間、動画公開。
- * 動画公開サイト：You tube からも視聴可能です。

後日、留学生と実行委員の皆様から、感想を寄せていただきました。

宇都宮大学

ササンカ（スリランカ）

今回は3回目の参加でした。留学生の意見や留学の経験等について、母国の代表者のような気持ちになって話ができるイベントです。今までの参加した他のイベントと違って日本人若者と一緒に活動できるイベントです。3回連続して参加してきた理由にはそのイベントの面白さ、大切さ等があげられます。社会人になる前にリーダーシップ、チームワーク等についても勉強できました。今回留学生としては最後でしたが今後一般参加者としても参加したいと思っています。

ロニー (コスタリカ)

多くの人々の協力のおかげで私は記憶に残るイベントに参加することができました。アジアについて何も知らない私に、すごく勉強になりました。どの年代の日本人も、留学生に関心を持って、話しかけてくれました。このことは日本の将来にとってとても大切なことだと思います。このイベントは母国紹介とゲームを使って、この広くて多文化な世界の事を教えてくれました。新しい友達が出来て、本当に嬉しいです。大成功でした！

ナビラ (マレーシア)

このイベントに参加して、自国について他の人に紹介できる機会になり、本当に感謝しています。それから、他の留学生の発表を聞いて「母国紹介について」面白く分かり易い発表をする方法を学びました。ゲームを通して、外国人だけでなく日本人の学生達や一般市民とも交流出来て、良かったと思います。ゲームの質問では他の国の珍しく面白いことについて学びました。いろいろなことを体験できて、良かったと思っています。次回の「UNESCO ユース・フォーラムがあれば、参加したいと思います。

ピィピョーナイン (ミャーマー)

皆さんに母国を紹介する機会をいただき、大変嬉しく感じました。違う国から来ている留学生たちの母国紹介を聞いたり、交流したことによって、異文化を肌で感じ、自分の世界がより広がったと思いました。また、日本人の学生たちに日本についての疑問や大学の生活について話しができて、勉強になりました。私にとって初めてとなった今回のUNESCO ユース・フォーラム in みなと 2015 は国際交流、国際理解を深めることができたのではないかと思います。

ムンジュ (モンゴル)

今回初めてこのユネスコ・ユースフォーラムに参加し、様々なバックグラウンドを持っている外国人および日本人と交流ができ、大変嬉しい気持ちでいっぱいです。パネル・トークで「日本で感じた母国のギャップ」や「日本に来てからの自分の変化」などのテーマについて話し、自分が気付いていなかったことに気付く良いきっかけになりました。今後も、このようなイベントを沢山計画してほしいです。ありがとうございました。



マヤ (モンゴル)

参加でき、嬉しい限りでした。様々な国の人々と仲良くなり、自分の経験したことを話し合ったりしたことは、自分は今どこにいて、どこまで成長したかを考える機会にもなりました。私は日本にいるうちにできるだけモンゴルについて教えてあげたいという気持ちで一杯です。モンゴル人の先輩と一緒にモンゴルの伝統的な舞踊を踊り、モンゴルの文化を少しでも皆様に伝えたいと頑張りました。いつも目に見えるものをしか見てなかった私、目に見えないものに気付き、視野を広げたと思います。なかなか得られないこういうチャンスを与えてくださった高井会長、長門さんに感謝を申し上げます。



ウーラ (モンゴル)

ユースフォーラム 2015」に参加したことは、留学生の私にとって、とても貴重な体験の一つになりました。みんなでグループに分かれ、自分の国から、留学生活、来日前の日本の印象や留学してから印象に残ったことなど話したり、それから他の国の人の江遊学性の話も聞けて、とてもいいパネルトークになったと思います。そして、日本人学生とゲームしたのがすごく楽しかった。各国の発表やモンゴル人友人 2 人の民俗ダンスは、とても印象的でした。このフォーラムに参加できたことを大変嬉しく思っており、機会があれば来年も是非参加したいと思います。



作新学院大学

江 小涛 (コウ シュウトウ 中国)

「UNESCO ユース・フォーラム in みなと」に参加して、貴重な経験をさせていただきました。港ユネスコ協会の高井会長をはじめ、ご協力いただいた皆様、いっくらの長門先生、小林さんに感謝申し上げます。この「ユース・フォーラム」を通じて多くの留学生や日本人学生と出会い、意見を交換出来て、良い刺激を受けました。他国の人々とも協力し合い、良い未来を創ることに貢献していきたいというモチベーションが生まれました。

金 玲 (ジン リン 中国・内モンゴル)

初めての新幹線に乗り東京へ参りました。とても速かったです。港ユネスコ協会やいっくら国際文化交流会のお陰様で沢山の日本人の方及び日本人大学生、そして優秀な留学生達との楽しい交流が出来ました。国際異文化を理解し

ながらとても楽しい1日を過ごしました。とても良い思い出になりました。特にグループ分けて貼り絵を作ったときの国別無く一体になって一生懸命頑張ったチーム精神は印象強かったです。これがユネスコ交流会の目指す私たちの理解するべき絆になるでしょう。自信なくて、残念ながら母国紹介をしませんでした。もし来年機会があれば、是非参加させていただき、母国紹介をさせていただきたいと思います。参加させていただき、ありがとうございました。皆様に心より感謝を申し上げます。



＜実行委員会の皆さまからの感想文＞

港ユネスコ協会

実行委員長 吉原 浩昌（法政大学3年）



今回は、交流の面を重視しようと決めました。参加者と留学生が話しやすいように、3グループに分かれてもらいました。トークの司会の一人として輪に入りましたが、留学生に積極的に話しかける様子、貼り絵作りやクイズを通して、留学生と参加者が一緒に協力している姿に「交流」を感じ、とてもいい雰囲気、双方が満足して下さったように思います。これからもユース・フォーラムを通してよりよい交流ができるように努力していきたいと思っています。

副委員長 岩田 麻衣

今年で三回目となります。今年は、留学生との距離感というのを意識して企画を進めていった結果、より留学生の皆さんを身近に感じられるフォーラムであったと感じます。特に貼り絵を作るゲームでは国籍、年代を越えお互いが協力しあい会場が一つとなっているのを感じ胸が熱くなりました。このような素晴らしいフォーラムの企画に携われたことをとても嬉しく思っております。留学生の母国と日本を繋ぐきっかけとして、このフォーラムがこれからも開催出来ることを強く願っております。



実行委員 関 友哉

大学生時代、2012年の第2回「UNESCO ユース・フォーラム」に参加し、今回は3年ぶりです。だんだん参加する学生が増えて、フォーラムの規模が大きくなってきているのを嬉しく思いました。

慶応大学ユネスコクラブ

今井 潤 法学部3年

去年に引き続き様々な国籍の方々との交流できたのが何よりも有意義でした。今年は去年以上にフランクに留学生の皆さんとゲームを通じて打ち解けることができたのが良かったです。また、留学生の皆さんの真摯な姿勢に感銘を受け、自分も改めて大学生としてしっかり学んでいきたいと感じました。これからも学んで国際的に貢献できる人間になりたいと思います。

高橋 健人 法学部2年

今回初めて総合司会を務めさせていただき、至らない点も多かった中、とても貴重な経験ができました。ありがとうございます。フォーラムに参加するのは今回で二回目なのですが、今回はより留学生と交流する機会があり、お互いの情報を深く交換できたと思います。プログラムに関しても、実行委員の方々のおかげでより充実したものになっていたと思います。是非次回も参加したいと思います。よろしくお願いします。

吉澤 未有 文学部2年

今年は初めて運営側として参加させて頂き、とても良い経験となりました。どうしたら参加者の方に楽しんでもらえるのか、どうしたら有意義な交流ができるのかみんな話合い、ゲームなどを考え、準備をした結果、実際に楽しい交流をすることができました。また、留学生が語ってくれた日本への思いに感動すると共に、ぜひ留学生の故郷にも訪れてみたいと思いました。参加できて本当によかったです。

池田 早紀 商学部2年

去年に引き続き二回目の参加でした。去年の反省を踏まえ、より留学生の方と直接交流できるように工夫しました。パネルディスカッションやグループ対抗ゲームは思いの外盛り上がり、留学生の方のことを深く知ることができたように思います。気軽に国際交流ができる場として来年以降も続けていけたらいいと思います。

利根川 護 経営学部4年

私自身2回目の参加となった今年のユース・フォーラムは、昨年よりも良いものを企画したいと思い試行錯誤しました。他の団体の方々と協力し一つのイベントを成し遂げることは難しいと同時に楽しいということを実感したイベントになりました。当日は、昨年よりも参加型のプログラムを増やすことで、留学生をはじめ会場にいたみなさんが楽しそうにしていました。結果的に、昨年よりも良いイベントになったのではないかと思います。

室久 智栄 経営学部2年

去年に引き続き2回目の企画からの参加でした。今年度は、私たちの企画で一番にこだわった“能動的な交流”がうまく活かされたフォーラムになったと思います。

去年度はなかなか話す機会がなかった留学生の方々とも、たくさんお話することができ、私自身とても充実感のある会になりました。ご来場くださった皆さんにこの会を楽しんでいただけたなら嬉しく思います。

星野 彩姫 文学部2年

私は初めてユース・フォーラムの企画に携わり、参加しました。他国のことを留学生の方から聞いたり、日本との違いを知ることができてとても面白かったです。また、話を聞くだけでなく皆でゲームをし、より交流を深められてよかったです。初めてのことで難しいことも多かったのですが自身も参加して楽しいフォーラムだったので良かったと思います。また参加し今までよりもっと楽しいユース・フォーラムをこれからも作っていきたいです。

五枚橋 興子 文学部2年

今回、グループワークの司会を務めさせて頂き、アットホームな雰囲気の中で、日本の学生や地域の方々、留学生の方々が和やかに交流されていました。グループワークは、自分の思っていた以上の盛り上がりで非常に嬉しく思いました。グループで1つの絵を作り上げ、会場の皆さんが笑顔で見せ合っている様子は、今回の企画・運営に携わる事ができ、幸いだと思う出来事でした。この貴重な機会を頂き、大変感謝しております。

笠 直哉 文学部1年

私は今回初めて港ユネスコフォーラムに参加しました。様々な国の人たちが集まり様々なテーマに向かって団結し考えようとする様子は私たちの日常生活からはすこしかけ離れた光景でもありとても珍しい体験をさせていただきました。異文化理解という点において僭越ながら大変素晴らしい機会だと思いました。このような取り組みの輪をもっともっと広げていってほしいです。

留学生の紹介

ディダ ベサリさん	Mr. Besar Dida (アルバニア共和国)	成蹊大学理工学部4年
ササンカさん	Mr. Chamara Sasanka Salgado (スリランカ民主社会主義共和国)	宇都宮留学生のリーダー 宇都宮大学工学部システム科 修士課程
ロニーさん	Mr. Rony Vargas Villalobos (コスタリカ共和国)	宇都宮大学国際学部 修士課程
マヤさん	Ms. Oyun Erdene (モンゴル国)	宇都宮大学工学部建築科1年
ムンジュさん	Ms. Bayarsaikhan Munkhod (モンゴル国)	宇都宮大学工学部情報科4年
ウーラさん	Mr. Davaasambuul Ganuul (モンゴル国)	宇都宮大学工学部電気電子学科3年
ナビラさん	Ms. ノル ナビラ ビンティ モハド マクター (マレーシア)	宇都宮大学工学部工学研究科修士課程
ナインさん	Mr. पी पीョー ナイン (ミャンマー連邦共和国)	宇都宮大学農学部4年
コウ ショウトウさん	Mr. 江 小涛 (中華人民共和国)	作新学院大学修士課程卒業 博士論文執筆中
ジン リンさん	Ms. 金 玲 (中華人民共和国 内モンゴル自治区)	作新学院大学経営学部経営学科4年
グエンさん	Mr. グエン コック クオン (ベトナム社会主義共和国)	作新学院大学経営学部経営学科3年

《実行委員会》 委員長 吉原浩昌 (港ユネスコ協会青年会員)

副委員長 岩田麻衣 (港ユネスコ協会青年会員)

委員 関 友哉 (港ユネスコ協会青年会員)

委員 慶応大学ユネスコクラブ 池田早紀、 今井 潤、 高橋健人、 吉澤未有

委員 玉川大学ユネスコクラブ 五枚橋興子、 利根川護、 星野彩姫、 室久智栄、 笠 直哉

委員 新宿ユネスコ協会青年会員 鶴岡真人

(記録まとめ 港ユネスコ協会 会長 高井光子)

リトアニアの家庭料理

日時：11月3日（火）午後1時～

会場：港区立男女平等参画センター「リーブラ」料理室

講師 ガリナ・メイルーニエネさん（駐日リトアニア共和国 大使夫人）



講師紹介 ヴェリニウス出身。2年前よりリトアニア大使夫人として赴任されています。流暢な日本語は学生時代から学びのたまもの。「漢字をみて魅了されそれがきっかけになりました。10年前国際交流基金関西国際センターで日本語研修の機会がありました。」とのことです。

リトアニアについて：

人口 294 万人。首都ヴェリニウス。四方はバルト海、ラトビア、ベラルーシ、ポーランド、ロシア。歴史をみると、中世にはヨーロッパ最大の公国であったことや、ポーランド・リトアニア共和国となりましたが 第二次世界大戦中にソビエト連邦の侵攻を受けソビエト連邦に編入。現在のリトアニアは 1990 年 3 月の独立宣言に始まります。

リトアニアの伝統家庭料理：

冬が長く寒いリトアニア。ライ麦の黒パン、ジャガイモ、ビーツ、ベリー、キノコの素材、そして乳製品を豊富に使います。またクリスマスイヴは 家族一同揃っていただく大事な食事です。12 種類の料理が並べられ、この日は一切、肉料理はいただかないそうです。



メニュー

デビルドエッグ (Deviled Eggs with Mushrooms)

固ゆでし、縦に二等分する。その卵の黄身を、エリンギ、みじん切りの玉ねぎをバターでいためたものに、サワークリームを混ぜ 白身にのせる。ディルも混ぜる。



ツイスターズ (Twisters)

薄力粉、バター、卵、砂糖、サワークリーム、バーボンを混ぜた生地をつくり寝かせた後、ひまわり油で揚げる。粉砂糖をかける。

じゃがいもパンケーキ (Seasoned potato pancakes)

ジャガイモ、玉ねぎをすりおろし、卵と薄力粉、塩、黒コショウを混ぜ合わせ、フライパンでパリパリになるまで焼き、サワークリームを添え、細かく刻んだディルをふりかける。

ビーツ入りサラダ (Vegetable salad)

ジャガイモとビーツは、固ゆでしてサイコロ状に切り、荒く刻んだ赤玉ねぎも一つのボールに入れて混ぜてサラダ油、塩、黒コショウを加えて混ぜる。ディルを飾る。

以上 4 品 ハーブティとともにいただきました。ツイスターズは、粉砂糖かけなくてもおいしいです。じゃがいもパンケーキは、「おやき」といったところでしょうか。ビーツ入りサラダは ビーツの赤がきれいでした。講師の先生から伺うリトアニアのお話しとともに 時間内に出来上がるかひやひやしなながらも、楽しくおいしい 3 時間半でした。

(世界の料理委員会委員長 松崎加寿子)

沖縄の民話とエイサー体験教室

日時：2015年11月7日（土）13時30分～16時30分

会場：港区立生涯学習センター101号室

- 内容
1. 沖縄、エイサーの説明
 2. 民話 [丘の一本松] 語り人：大城明誠さん
 3. 創作エイサーのデモンストレーション（昇龍祭太鼓の皆様3名による）
 4. エイサー踊りの練習 ご指導は水野 順一郎さん（世界エイサー大使）
 5. 交流と記念撮影



エイサーは、沖縄の伝統芸能の1つで、主に各地域の青年会がそれぞれの型を持ち、旧盆の夜に地域内を踊りながら練り歩きます。

今回教えていただいたのは、舞台上で演じる**創作エイサー**。空手の要素を取り入れた、とてもキレのある、華やかなエイサーでした。それだけ、複雑で難しい動きでしたが、習いごたえのあるものでした。

参加者 20名（外国人4名、子供1名含）
民話語り1名、踊り手3名、スタッフ5名



皆様からの感想

- とても楽しかった。
- 手足を合わせて踊るのが大変でした。
- 息子と一緒に楽しめました。
- 踊りが難しかったが興味深かった。先生の教え方が上手でした。



皆様一生懸命に練習して最後は音楽に合わせて踊れるまでに上達しました。

楽しく過ごすことが出来ましたことを嬉しく思います。

日本文化体験教室委員会
担当常任理事 平方一代

みなと区民まつり

2015年10月10日（土）～11日（日）

10月恒例の区民まつりが芝公園で開催され、港ユネスコ協会も参加しました。各委員会紹介のパネル展示をするとともに、ミニバザーを開きました。



テントの場所は、毎年と同じ場所でした。お天気は、まあまあという状況でしたが、バザーの品物は、完売でした。利益は、日本ユネスコ協会連盟を通して、就学支援基金に寄付いたしました。





大使館訪問

アゼルバイジャン共和国大使館

日時：2015年11月11日（水） 午後2時～3時50分

アゼルバイジャン共和国大使館は、目黒区東が丘1丁目、国立病院機構・東京医療センター近くの、閑静な住宅街にあります。2005年10月に開設された、まだ新しい大使館です。

副大使のロヴシャン ミルザエフ 1等書記官が、ステキな応接間を通して下さり、お国の文化、観光、教育そして経済に関して、流暢な日本語で、パワーポイントを使ってわかりやすくお話し下さいました。



その後、部屋を変えて、有名なアゼルバイジャン産のワインと、「バクラヴァ」というケーキでパーティを開き、大使館の皆さんが加わってフレンドリーにもてなして下さいました。「バクラヴァ」はロヴシャン夫人が前日お作り下さったそうで、風味豊かな上品なお味でとても美味しく、ワインと一緒に頂きました。

アゼルバイジャンは、コーカサス地方の南東部にあり、アジアとヨーロッパの交差点に位置しています。



シルクロードの通過点という、島国日本とは全く異なる地理的条件に位置し、周辺は強力な大国に囲まれています。北はロシア、東はカスピ海に面し、南はイラン、西はジョージア、アルメニア、トルコに接しています。

ここには石器時代から人が住んでいたという古い歴史を持っています。多様な文化が共存し、文化遺産も数多く残っています。

面積は8万6600 km²（北海道よりやや大きい）、人口は950万人。イスラム教徒（シーア派）が95%ですが、世俗的な国家です。

1991年の独立後、豊富な石油、天然ガス生産などを活かして、著しい経済発展をとげています。2013年のGDPは735.4億ドル、1人当たりのGDPは7900ドル（10年間で4倍）です。

2014年2月、ギュルセル・イスマイルザーデ大使が、当協会の国際理解講演会で、「アゼルバイジャン共和国・独立国家として23年」というテーマで日本語で講演して下さいました。上智大学博士課程で、三輪公忠名誉会長の教え子さんというご縁からでした。その時、大使から伺った「火の国・アゼルバイジャン」のお話は、たいへん興味深く、印象に残りました。アゼルは火を意味し、それは、首都バクーにはバクー油田があり、拝火教の聖地があるからとのことでした。

長い歴史を通して、幾多の国々に支配を受けるなど、苦勞をしながらバランスをとり、国民の皆さんが力を合わせて、発展のために努力されているのだと思いました。



大使様はじめ、気持ちよく受け入れてロヴシャン・ミルザエフ1等書記官ご夫妻、フアド・バキロフ3等書記官や大使館の皆さまにお礼申し上げます。
（会長 高井光子）



長門芳子理事 おめでとうございます

長門理事がモンゴル国・最高勲章「アルタン・ガダス北極星勲章」を叙勲されました。9月14日叙勲式がモンゴル大使館で行われ、ソドブジャムツ・フレルバートル駐日大使から、勲章と証書が授与されました。

宇都宮市において24年にわたり、モンゴルの研修生や大学生を受け入れるなどの交流や昔話の対訳本出版など、草の根の国際交流活動が高く評価されていることです。

2015年度関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 栃木

UNESCO 創設 70 周年記念

～持続可能な社会のために「つなげよう次の世代にユネスコの英知」～

(主催：日本ユネスコ協会連盟、関東ブロック・ユネスコ連絡協議会・栃木県ユネスコ連絡協議会)

2015年10月24日(土) 会場：栃木県佐野市・佐野短期大学

(詳細は日ユ協連「ユネスコ」で報告予定)



午前10時30分からのオープニングには、佐野少年少女合唱団「ドルチェ」の合唱と、佐野日本大学中学校和太鼓部の「佐日太鼓」の演奏がありました。

70周年記念特別講演として、「ユネスコが求める積極的平和」～地域から始めようESDの取り組み～というテーマで、日本ユネスコ協会連盟副理事長の鈴木佑司氏が講演されました。

分科会は、下記の4部門に分かれました。

- I、「世界遺産・地域遺産」・・・日光社寺、佐野の唐沢山城、天明 鋳物や自然遺産を守り伝えて
- II、ユネスコ・スクールと民間のユネスコ活動の役割
- III、ユネスコと青少年活動
- IV、「ユネスコ活動の活性化と情報化」

第III分科会：宇都宮ユネスコ協会の吉田一彦教授と、スリランカのササンカさん(宇都宮大学博士課程)が、「一般市民との交流活動を通したユネスコの理念実現に向けて」という提案をされ、続いて、港ユネスコ協会高井光子会長が「UNESCO ユースフォーラム in みなと」についての報告を行いました。その後、大田原女子高等学校ユネスコ部の十数名の生徒さんと先生が、栃木県内6校の連携と相互に切磋琢磨しているユネスコ活動を報告されました。



2日目の「エクスカージョン」には佐藤律子さんと、小林敬幸の2人が参加しました。千年の歴史をもつ天明鋳物、関東有数の大規模な山城である唐沢山城跡、人権擁護と自然保護の先駆者・田中正造の旧宅を廻り、佐野の歴史と文化の中のユネスコ活動の成果を学びました。私は、港ユネスコ協会の内部の活動を飛び出しての初の体験でした。この2日間は、関東(1都、5県)の各ユネスコのメンバーと語り合い刺激を受け、且つ地元の方から直接「地域遺産」の説明を受けることができた貴重な体験でした。(関ブロ研究会2016年度実行委員 小林 敬幸)

I分科会の日光ユネスコ協会の活動報告会に参加しました。同協会は、①地域の高校生による世界遺産「日光の社寺」周辺で環境モニタリングを実施 ②高校生によるユネスコ協会交流学習会を開催 ③高校の学校祭に参加してユネスコ協会の活動を教員や生徒に知ってもらう、という活動を定期的に行っている。世界遺産のある自治体は保全状況を文化庁に報告することが義務付けられており、同協会は日光市から委託を受けてモニタリング活動を行っているものです。日光ユネスコ協会が地元で大きな役割を担っている様子が報告されました。実りある研修会でした。参加する機会を頂き有難うございました。(関ブロ研究会2016年度実行委員 佐藤律子)

事務局便り

【ようこそ 新入会員】 個人会員：逸見 和子さん

【今後の事業予定】（詳細は別途、チラシやホームページでご案内します）

☆12月9日（水）18：30～20：30 港ユネスコ協会シンポジウム「気候変動時代の 水害と水不足」

会場：港区立麻布区民センター・ホール

パネリスト：高橋 裕 東京大学名誉教授
森下 郁子 （一社）淡水生物研究所所長
沖 大幹 東京大学生産技術研究所教授

コーディネーター：永野 博 港ユネスコ協会副会長

☆12月12日（土）13：00～15：30「書道体験教室」参加費 300円 会場：港区立生涯学習センター

☆1月6日（水）～3月23日（水）英会話初級クラス、毎水曜日、18：30～20：30、コース全12回、

講師：マーク・マードック先生 会場：港区立麻布区民センター

☆1月23日（土）13：30～16：00「茶の湯体験教室」参加費 500円 会場：港区立生涯学習センター

☆2月6日（土）12：00～14：00 新年懇親会 ゲスト：慶応義塾大学落語研究会の学生さん

会場：理窓会倶楽部サロン（新宿神楽坂）

☆2月29日（月）15：00～16：30「ディプロマッツ・レクチャー」参加対象：駐日大使および大使官員のみ

講師：藤崎 一郎 元駐米大使 会場：国際文化会館

【ご寄付、ご寄贈品など。ご協力ありがとうございました。】

(A) 日本ユネスコ協会連盟への東日本大震災子ども支援募金（就学支援奨学金として）

☆10月3日（土）「UNESCO コース・フォーラム in みなと 2015」会場での募金 6,100円

☆10月11日（日）みなと区民まつり会場での売り上げと募金 11,180円

☆10月28日（水）「第2回国際理解講演会」会場での募金 5,300円

(B) 港ユネスコ協会・平和基金へのご寄付

☆港区テニス連盟様 78,000円

(C) ミンダナオ子ども図書館への寄贈品（衣料品ほか 11月19日に発送済み）

寄贈者（敬称略）：今村孝子、大谷陽子、奥村和子、葛西章江、鈴木明美、須田康司、高井光子

港ユネスコ協会事務局（火～金 10：30～17：30）

〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 TEL 03(3434)2300 TEL・FAX 03(3434)2233

Eメール：info@minatounesco.jp ウェブサイト：<http://minato-unesco.jp>

■編集後記■

◆ どなたのものかは定かでないが『年とともに人生はクロノロジー（年代記）からパースペクティブ（遠近法）になり、最後は一枚のピクチャー（絵）になる』との言葉が記憶に残っている。自分の人生も最後は綺麗なピクチャーになることを願う。（須田康司）

◆ 横浜開港資料館で「その音、奇妙なり - 横浜・西洋音楽との出会い」という面白そうな展示をやっていたので、これを見にいった。関連講演「ペリー来航と日本語讃美歌の誕生」も拝聴したが、初めて洋楽を耳にした日本人の様子、逆に初めて日本の音曲に接したペリー艦隊乗組員達の印象などを含め、異文化の出会いにまつわる興味尽きない内容であった。（柵橋征一）

◆ 「水」。3.11の津波、集中豪雨、堤防決壊・洪水などの水の威力に、テレビの前で言葉を失った。過日、書店でNHKのテキスト「100分de名著」—「『水』のよういきる—老子と孫子」が目に入った。今から2500年前の中国に生きた二人の思想家は、共通して「水」に注目していたという。

「老子—最上の善なるあり方は水のようなものだ」、「孫子—常なる形がない水の姿こそが理想である」と。水ほど柔軟で強力なものはない。だから、今、私たちに必要なのは、柔と剛、両者のバランスだ、とテキストは解説している。（高井光子）